

日本工学院専門学校	開講年度	2020年度	科目名	番組制作3	
科目基礎情報					
開設学科	放送芸術科	コース名		開設期	前期
対象年次	2年次	科目区分	必修	時間数	60時間
単位数	4単位			授業形態	講義
教科書/教材	教科書/教材/資料については授業内に適時配布				
担当教員情報					
担当教員	コトブキツカサ・高沢敦博		実務経験の有無・職種	有 (映像業務全般)	
学習目的					
映像製作者として正しい映像の見識を持ち、コンテンツを「主題」「脚本」「演出」「撮影技術」「演技」と視点を複数持ち鑑賞できるスキルを持つことを目的とする。					
到達目標					
学生が特に<実習>において学ぶ技術は、実際どういった場面で、どのように生かせるのか、より視覚的なアプローチで示す授業である。学生は様々な映画、TV番組、映像を解説付きで鑑賞し、撮影技法、演出方法を一体的に学ぶことになる。映像から、それはどのようにどこから撮影されているかを想像し、理解することがひとつの目標となる。					
教育方法等					
授業概要	この授業では、個人ワークやグループワークを採り入れる。特にグループワークでは他人に気を遣い過ぎず、まず他人を傷つけることなく自分の意見を上手に伝えること、さらに相手の話をきちんと最後まで聞き、すぐに否定せず理解することを促す。そしてチームの意見としてまとめる努力をする。決して答えがあるわけではない映画を使い、習慣づけることを狙いとする。☒				
注意点	この授業では言葉を発することを促し、思っていること・意見を積極的に言えるようにし、多角的なモノの見方を学ぶので、学生同士の会話をある程度許容する。教員は、学生の勇気をもって発言した内容を否定しない。まず受け止め肯定し、いい点を褒める。次に反対意見、違う意見を求め、対話をリードする。ただし、授業時数の4分の3以上出席しない者は定期試験を受験することができない。				
評価方法	種別	割合	備 考		
	レポート	80%	授業内容の理解度を確認するために実施する		
	平常点	20%	積極的な授業参加度、受講態度などによって評価する		
授業計画 (1回～15回)					
回	主な実習内容	主な各回の到達目標			
1回	巨匠の映画術①	「シャイニング」等を使い、スタンリーキューブリック監督ほか名匠巨匠の映画技法を学ぶ			
2回	巨匠の映画術②	後発作品リメイクやオマージュをたどり、技術の変化を学ぶ			
3回	巨匠の映画術③	原作者の意図と映像化というズレから、映像の特性を考える			
4回	巨匠の映画術④	スティーヴン・スピルバーグ監督ほか監督業とプロデュースの立ち位置の違いを考える			
5回	巨匠の映画術⑤	現代の映画監督にとり、キューブリック他歴史的な監督作品の位置づけを考える			
6回	イスラム圏の映画制作①	イランの映画におけるイスラムの考え方。そして政府の検閲の存在			
7回	イスラム圏の映画制作②	サウジアラビア史上初の女性映画監督作品に見るジェンダー差別の実態と文化			
8回	イスラム圏の映画制作③	レバノン映画に見るパレスチナ移民の実態と宗教の問題			
9回	イスラム圏の映画制作④	パレスチナで制作される映画。イスラエルの歴史と軍事支配の実態			
10回	特殊撮影①	「マッドマックス怒りのデスロード」などの作品における移動撮影			
11回	特殊撮影②	新たなCG、従来とは異なる合成の使い方			
12回	特殊撮影③	エアリアル撮影の現在。撮影現場の安全確保			
13回	日本映画の未来の希望①	白石和彌監督ほか作品の新しさと暴力表現			
14回	日本映画の未来の希望②	三宅唱監督、深田晃司監督ら、若手監督の息吹			
15回	歴史、政治、映画	韓国の近現代史とその表現			